

事業評価監視委員会審議資料

○一般国道329号 与那原バイパス

○一般国道329号 南風原バイパス

沖縄総合事務局開発建設部

事業評価監視委員会審議資料 道路事業（再評価）

一般国道329号 与那原バイパス
一般国道329号 南風原バイパス



平成24年10月24日
沖縄総合事務局 南部国道事務所

目次

1. 事業概要	2
2. 事業の必要性	4
(1) 社会状況の変化	4
(2) 道路交通状況の変化	7
(3) 地域の要望・活動	9
3. 事業の整備効果	10
(1) 円滑なモビリティの確保	10
(2) 個性ある地域の形成	14
(3) 安全で安心できる暮らしの確保	15
4. 事業の進捗状況と見込み	17
(1) コスト縮減の取り組み	17
(2) 進捗状況と見込み	18
5. 事業の投資効果	19
6. 対応方針	21

1. 事業概要

- ◆国道329号(那覇市上間～西原町区間)は、沖縄本島の太平洋側と東シナ海側を結ぶ大動脈であり、本島の南東部と那覇市を結ぶ主要幹線道路である。また、ハシゴ道路計画にも位置づけられている(図1)。
- ◆与那原バイパス・南風原バイパスは国道329号のバイパスであり、那覇都市圏の円滑な交通を確保することを目的とした2環状7放射道路として位置づけられた、合計延長7.0kmの道路事業である(図2)。

■国道329号の位置づけ、役割

【ハシゴ道路】

- ・ 交通容量の拡大と南北方向の交通の分散
- ・ 沖縄自動車道のアクセシビリティ向上

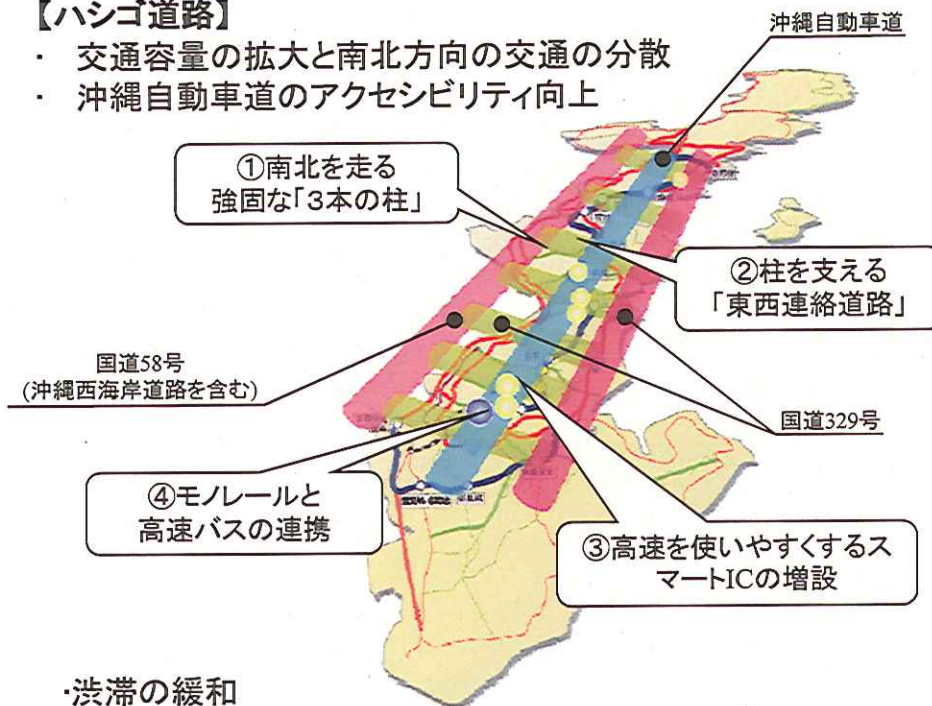


図1 ハシゴ道路イメージ (幹線協)

- ・ 渋滞の緩和
- ・ 交通事故抑制
- ・ 観光支援
- ・ 物流の効率化

■与那原バイパス・南風原バイパスの位置づけ、役割

【2環状7放射道路】

放射道路として、都市部の交通混雑緩和に寄与

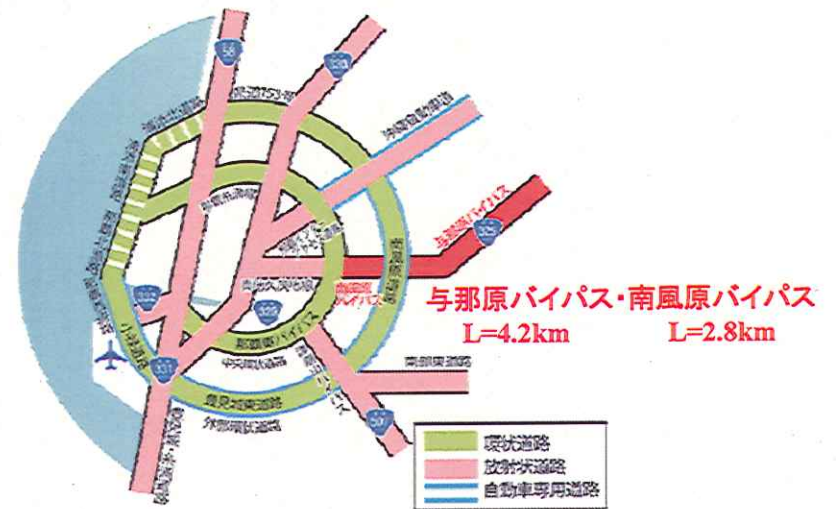


図2 2環状7放射道路イメージ (渋滞協)

- ・ 那覇港、那覇空港へのアクセス向上
- ・ 那覇都市圏の交通混雑の緩和
- ・ 通過交通、域内交通が輻輳する区間の混雑緩和
- ・ 地域交流の促進

1. 事業概要

◆与那原バイパスは平成4年度、南風原バイパスは平成7年度に事業化され、現在、鋭意、事業進捗を図っている。

■ 道路諸元

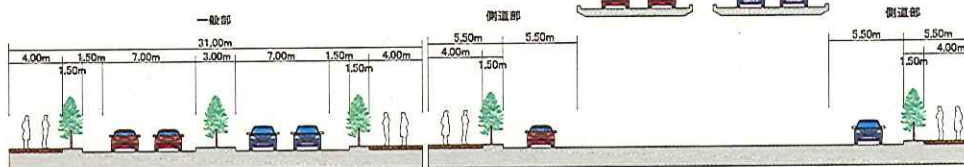
	与那原バイパス	南風原バイパス
事業区間	自)中頭郡西原町字小那覇 至)島尻郡南風原町字与那覇	自)島尻郡南風原町字与那覇 至)那覇市上間
延長	4.2 km	2.8 km
道路規格	第4種第1級	第4種第1級
設計速度	60 km/h	60 km/h
車線数	4車線	4車線
交通量	353百台/日 (平成42年推計値)	387百台/日 (平成42年推計値)
事業費	470億円	450億円

■ 事業対象道路位置図

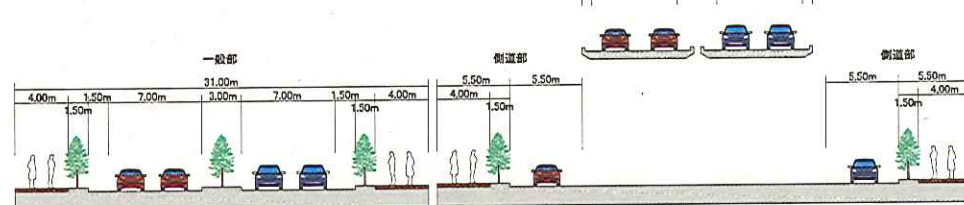


■ 標準断面図

<与那原バイパス>



<南風原バイパス>



■ これまでの経緯

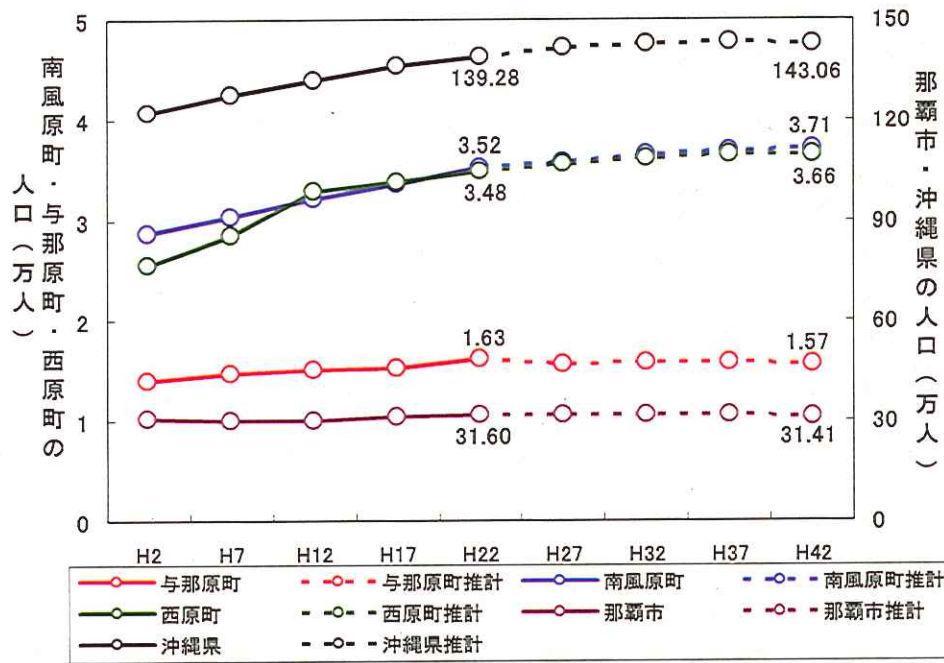
年次	与那原バイパス	南風原バイパス
平成4年度	事業化	—
平成7年度	—	事業化
平成12年度	都市計画決定	
平成14年度	用地着手	
平成15年度	—	工事着手
平成16年度	工事着手	—

2. 事業の必要性

(1) 社会状況の変化[人口等]

- ◆近年、沖縄県内の人口は増加傾向にあり、与那原バイパス・南風原バイパス周辺(南風原町、西原町)においても、今後、更なる人口増加が見込まれる(図3)。
- ◆南風原町・与那原町・西原町は那覇市内への通勤・通学が多く、特に南風原町では約半数を占めている。また、南風原町・与那原町・西原町全体を通して、東西方向の移動が多い(図4)。

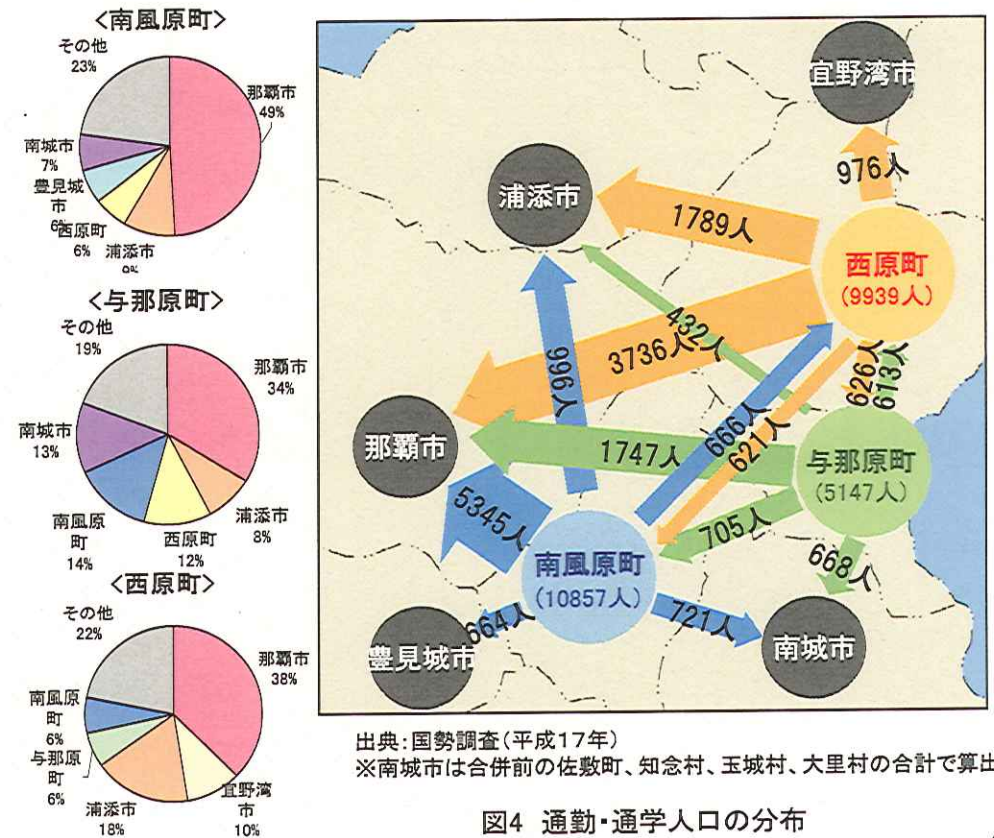
■人口の推移



出典:国勢調査(H2~H22)、国立社会保障・人口問題研究所(H27~H42)
※破線は将来推計人口

図3 人口の推移

■3町の通勤・通学(他市区町村に通勤・通学する人口、上位5市町)



出典:国勢調査(平成17年)
※南城市は合併前の佐敷町、知念村、玉城村、大里村の合計で算出

図4 通勤・通学人口の分布

2. 事業の必要性

(1) 社会状況の変化[土地利用]

- ◆西原与那原地区の活性化に向け、沖縄県・西原町・与那原町が協働して「中城湾港マリントウンプロジェクト」を推進している。
- ◆マリントウンでは分譲地、マリーナ、人工海岸(マリンパーク)、緑地等が計画・整備中であり、居住人口および観光客の増加が予想されるなど、多くの利用者が見込まれている。

■マリントウン「まちづくりコンセプト」

○地元住民が誇れる「憩いの空間」

⇒地域の自然や地場産業を活かし、地元の人たちに愛され親しまれる空間

○活力に満ちた人や物を「育てる空間」

⇒東海岸のイメージを活かし、「これからのまち」、「はじまり」を予感させる空間

○観光客が魅かれる「暮らしの空間」

⇒観光客が魅かれるような、地元の人たちが集い・活力のある空間



図5 マリントウン位置図

西原マリンパークには年間40万人以上が来場しており、7~8月のピーク時には1日に4000~5000人が来場します。



西原マリンパーク管理者

■マリントウン「事業概要」

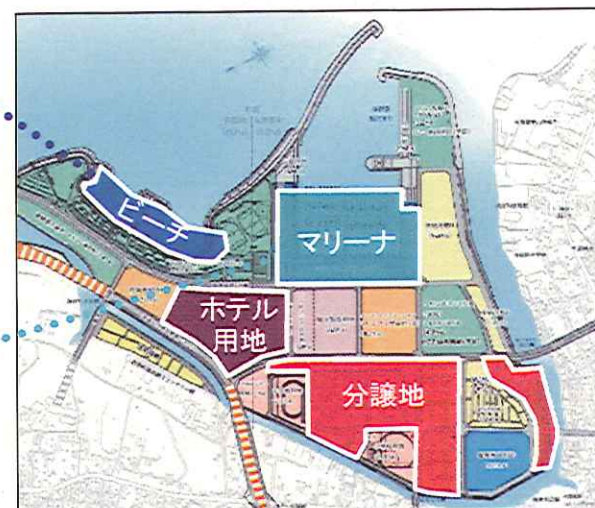
事業主体	沖縄県
事業期間	平成5年~平成26年
埋立面積	142ha (西原町域 60ha、与那原町域82ha)
総事業費	634億円
主要整備施設	小船だまり(西原、与那原)、マリーナ、人工海浜、海浜緑地など



与那原町役場

南風原・与那原バイパスの整備を前提に分譲地の販売PRを展開しています。

与那原町に分譲地はすでに完売しており、沖縄県に分譲地は60%が契約済みです。



出典:中城湾港マリントウンプロジェクト パンフレットより

2. 事業の必要性

(1) 社会状況の変化[商業立地]

- ◆国道329号および与那原・南風原バイパス周辺にはイオンやニトリ等の大型商業施設をはじめとした商業施設が立地している(図6)。
- ◆南風原町ではバイパス沿線を[交通拠点・医療ゾーン] [広域商業交流ゾーン]と位置づけており、今後も商業機能の向上が見込まれる(図7)。
- ◆那覇市中心部からのアクセス性も良好であり、今後更なるにぎわいが期待される。

■バイパス沿線の商業立地状況

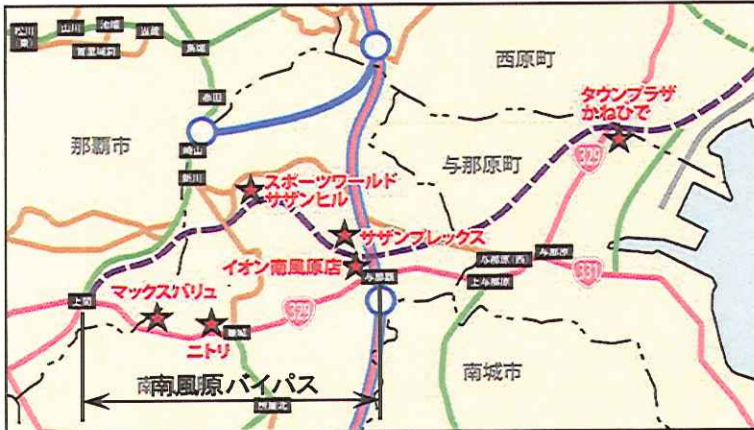


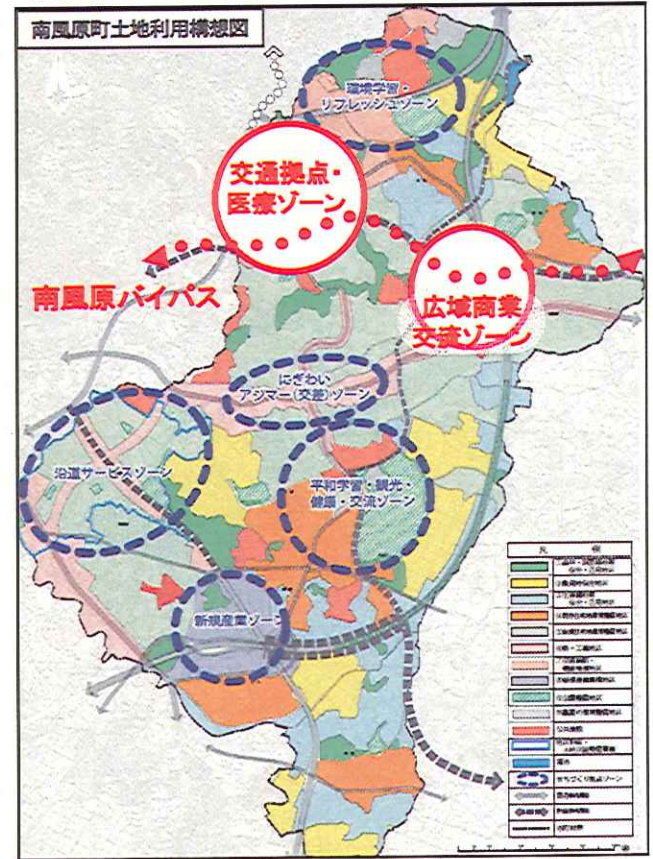
図6 南風原バイパス沿線 商業立地

バイパス沿線は[交通拠点・医療ゾーン] [広域商業交流ゾーン]として計画しています。
 現道である国道329号沿線の商業立地が進むにつれて、渋滞や店舗出入りのための滞留発生など、交通状況に変化がみられます。
 南風原バイパス沿線を市街化調整区域から市街化区域への用途変更を予定しています。



南風原町役場

■南風原町基本計画 土地利用構想図



出典:南風原町基本計画・基本構想(平成19年度～平成28年度)

図7 南風原町土地利用構想図



イオン南風原店

2004年5月開業

■南風原町基本計画 まちづくり目標

1. みんなで考え、みんなで創るわくわくするまち
2. 人もまちもきらきら育つまち
3. ちむぐるでつくる福祉と健康のまち
4. 工夫と連携で産業が躍動するまち
5. みどりとまちが調和した安心・安全のまち
6. 環境と共生する美しく住みよいまち

出典:南風原町基本計画(平成18年11月)

2. 事業の必要性

(2) 道路交通状況の変化

- ◆ 国道329号(与那原バイパス・南風原バイパスの並行区間)の平均交通量は3万台/日以上、混雑度は1.38まで増加している。また混雑時旅行速度18.5km/hと慢性的な渋滞が発生している。
- ◆ 渋滞損失時間も高い値を示しており、与那原バイパス・南風原バイパスの整備による国道329号の交通円滑化が必要である(図8,図9)。

■ 国道329号の渋滞損失時間

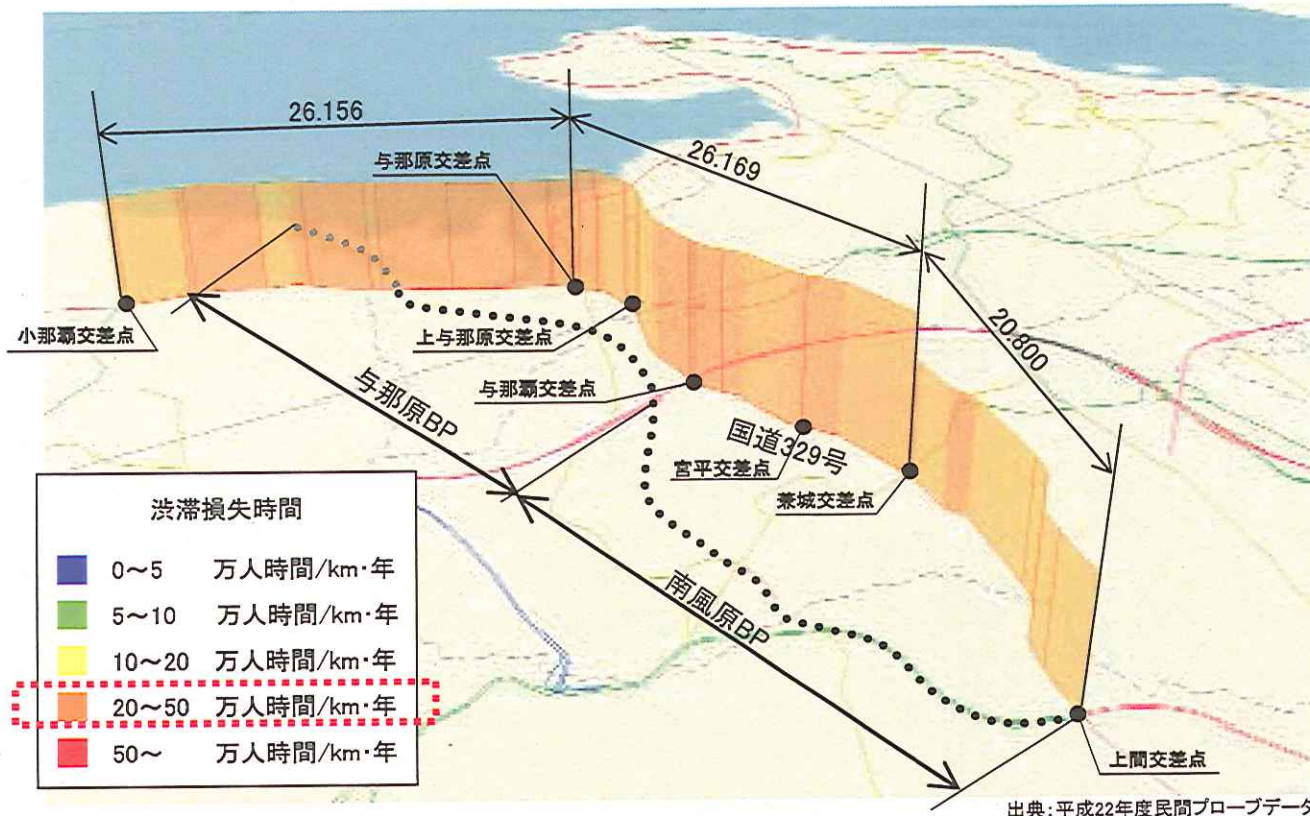


図8 渋滞損失時間(与那原BP、南風原BPに並行する国道329号を表現)



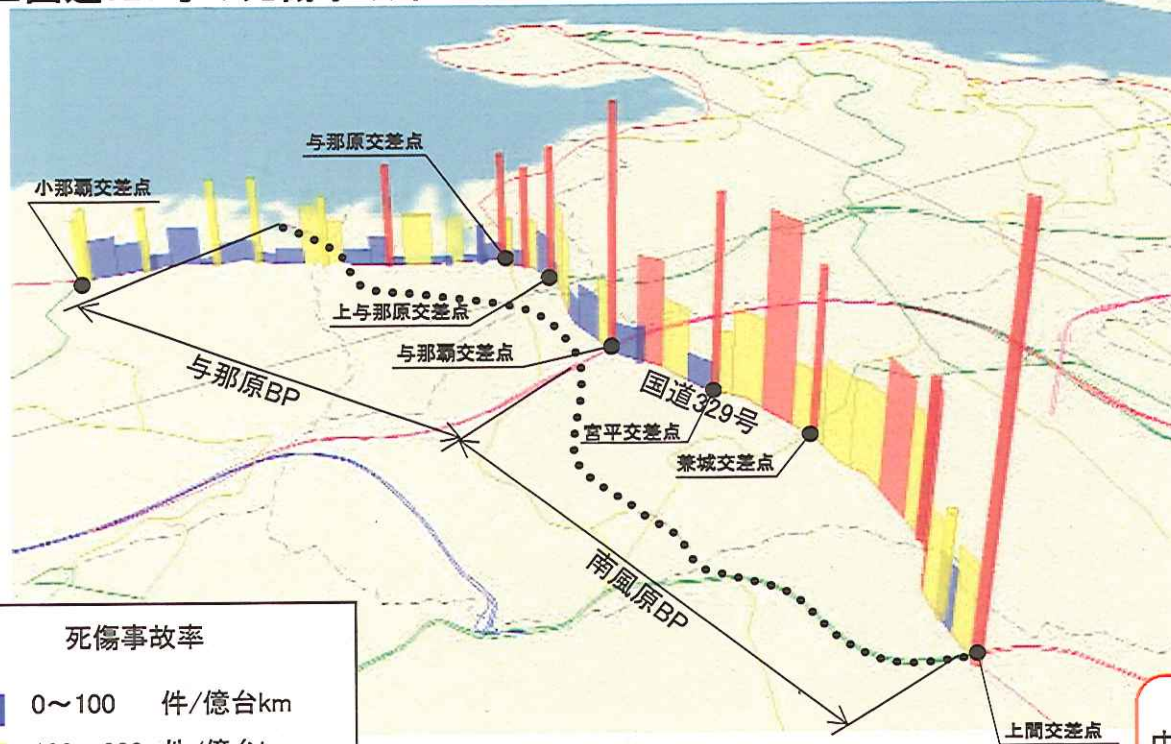
図9 国道329号の状況

2. 事業の必要性

(2) 道路交通状況の変化

- ◆与那原バイパス・南風原バイパスと並行する国道329号は、上間交差点における死傷事故率が約575件/億台キロであり、幹線道路の全国平均値である100件/億台キロの5倍以上となっている(図10)。
- ◆対象区間の多くが南部国道管内の平均値:65.2件/億台キロよりも高い数値を示しており、沖縄県南部でも死傷事故の発生率が高い区間となっている(図11)。

■ 国道329号の死傷事故率



死傷事故率

■	0~100	件/億台km
■	100~200	件/億台km
■	200~	件/億台km

図10 死傷事故率(国道329号のみ表現)

出典:平成21年度交通事故総合データベース

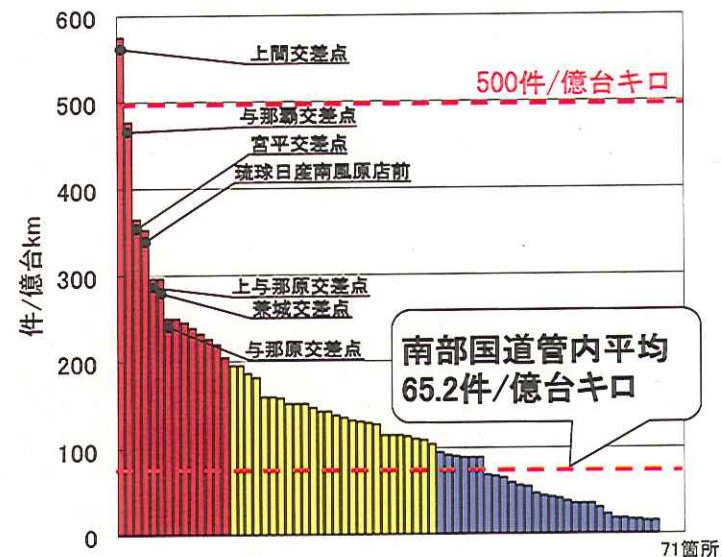


図11 国道329号(並行区間)における死傷事故率(H18-H21)

※国道329号(並行区間)として、センサス区間1038、1039、1040(上間交差点~小那覇交差点)を対象とした。
※対象71箇所のうち、管内平均を超える箇所は49箇所

3町で発生している事故は国道329号に集中しており、宮平交差点・兼城交差点・与那原交差点などの主要な交差点において事故が多発しています。



与那原警察署 8

2. 事業の必要性

(3) 地域の要望・活動

◆国道329号(与那原バイパス・南風原バイパス)に関して、平成12年以降、各種団体より多くの早期整備に関する要望が出されている。


■整備促進要望状況(平成12年以降)


年	月	発 信 元	件 名
H12	5	財団法人南部振興会 南部市町村会	沖縄南部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H12	11	"	"
H13	5	"	"
H13	11	"	"
H14	5	"	"
H15	5	"	"
H16	2	与那原町	国道329号与那原バイパス(西原地区・与那原地区)の早期整備について(要請)
H17	9	"	国道329号与那原バイパス(与那原地区・西原地区)の早期整備について(要請)
H18	5	南部市町村会 財団法人南部振興会	沖縄南部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H19	5	南部市町村会 財団法人南部振興会	沖縄南部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H19	5	南風原町長 与那原町長 西原町長	要請書 国道329号バイパスの早期整備及び延伸について
H20	5	南部市町村会 財団法人南部振興会	沖縄南部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H21	5	"	"
H21	12	"	沖縄南部地域の安全・安心の道づくり促進に関する要請書
H22	5	"	"
H23	5	中部市町村会 中部振興会	沖縄県中部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H23	5	財団法人南部振興会 島尻地域振興開発推進協議会 南部東道路整備促進期成会	沖縄南部地域の安全・安心の道づくり促進に関する要請書
H23	5	沖縄県道路利用者会議 道路整備促進期成会同盟会 那覇空港自動車道建設促進期成会 沖縄国道協会 沖縄西海岸道路建設促進期成会 沖縄ハンゴ道路ネットワーク建設促進期成会	道路の整備促進に関する要請書
H23	11	中部市町村会 中部振興会	沖縄中部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H23	11	沖縄県道路利用者会議 道路整備促進期成会同盟会 那覇空港自動車道建設促進期成会 沖縄国道協会 沖縄西海岸道路建設促進期成会 沖縄ハンゴ道路ネットワーク建設促進期成会 沖縄県都市計画協会	道路の整備促進に関する要請書
H24	5	中部市町村会 中部振興会	沖縄県中部地域の道路網の整備促進に関する要請書
H24	5	南部市町村会 財団法人南部振興会 島尻地域振興開発推進協議会 南部東道路整備促進期成会	沖縄南部地域の安全・安心の道づくり促進に関する要請書
H24	5	沖縄県道路利用者会議 道路整備促進期成会同盟会 那覇空港自動車道建設促進期成会 沖縄国道協会 沖縄西海岸道路建設促進期成会 沖縄ハンゴ道路ネットワーク建設促進期成会 沖縄県都市計画協会	道路の整備促進に関する要請書


内閣府沖縄振興局参事官
(振興第一担当)
朝比奈 志 浩 殿

平成24年5月23日

南部市町村
会長 城 間 俊


財団法人南部振興
会長 上 原 裕


島尻地域振興開発推進協
会長 古 謝 景


南部東道路整備促進期
会長 古 謝 景


沖縄南部地域の安全・安心の道づくり促進に関する要請

平素、沖縄県南部地域の道路網の整備促進に鋭意御努力いただいておりますことに対し、深く感謝と敬意を表するものであります。

さて、南部地域の安全・安心の道づくりと観光振興等経済活動の活性化を促進するため、その基盤である道路網の早期整備が望まれており、次の事項の実現方について、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

一、国道329号与那原バイパス・南風原バイパスの整備推進及び西原バイパスの早期事業化について

沖縄本島南部の東部地域と那覇市を結ぶ国道329号の慢性的交通渋滞緩和を図るため与那原町から那覇市の間にバイパスを建設する必要があります。特に、中城湾港新港地区やマリントウン事業等、諸事業を支援するためにも与那原バイパス及び南風原バイパスの整備を推進していただきたい。さらに、与那原バイパスと連絡する国道329号西原バイパスの早期事業化を図っていただきたい。

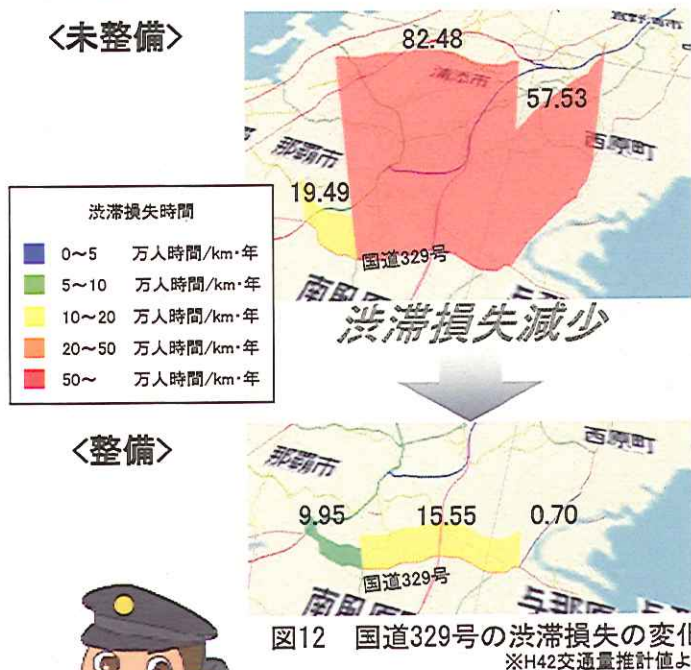
※沖縄南部地域の安全・安心の道づくり促進に関する要請書 平成24年5月
(中部市町村会、中部振興会、島尻地域振興開発推進協議会、南部東道路整備促進期成会)

3. 事業の整備効果

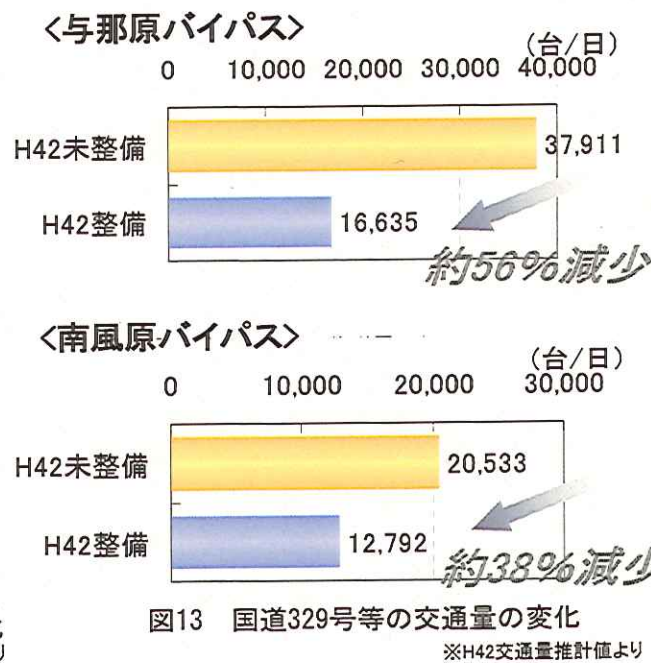
(1)円滑なモビリティの確保

- ◆与那原バイパス・南風原バイパスの整備によって、国道329号への交通集中が緩和し、与那原バイパス並行区間の交通量が約56%、南風原バイパス並行区間の交通量が約38%減少する(図13)。
- ◆利用者意識調査では、78%が交通円滑性の向上に期待していると回答している(図14)。
- ◆那覇市内への通勤・通学の利便性が向上し、与那原町・南風原町の魅力が更に高まることとが期待される。

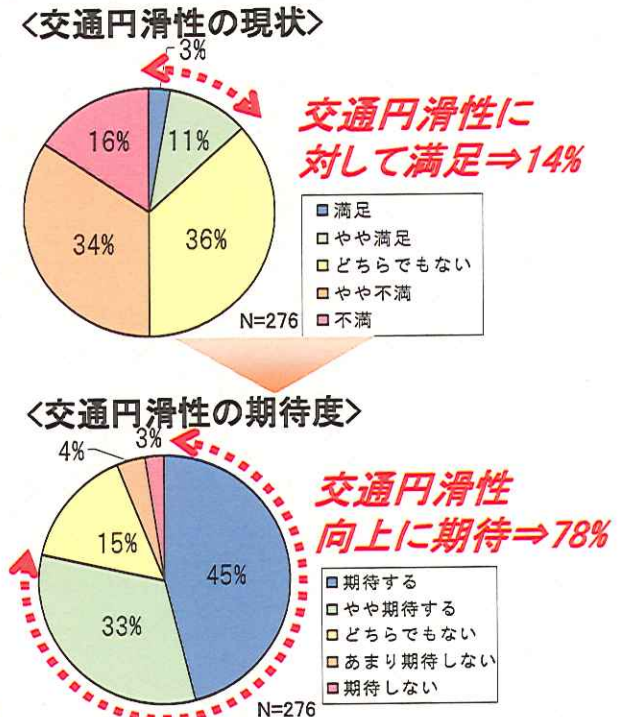
■国道329号の渋滞損失の変化



■国道329号の交通量の変化



■交通円滑性に対する要望



東陽バス

朝夕の時間帯が混雑しており、バスが渋滞に巻き込まれることが多くなっています。バイパス整備によって混雑が解消され、所要時間が短縮されれば、バス運行の信頼性向上につながると期待しています。

3. 事業の整備効果

(1)円滑なモビリティの確保

- ◆東海岸に位置する中城湾港は、工業や物流関連の企業が立地しており、東海岸における生産・流通拠点としての機能を有している(図15)。
- ◆与那原バイパス・南風原バイパスの整備によって、沖縄県の物流拠点である那覇新港から中城湾港周辺への所要時間が約21%(10分)短縮し、物流の効率化が期待される(図16)。

■中城湾港(西原町)の主な企業立地



図15 中城湾港の主な企業立地

■沖縄新港～コープおきなわ物流センターの経路・所要時間

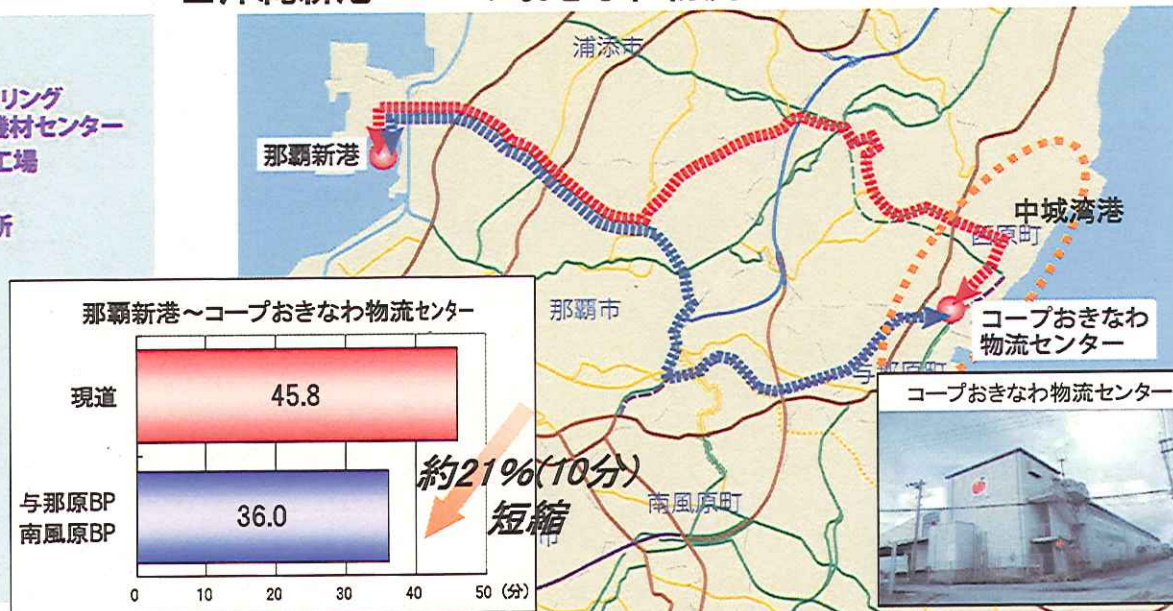


図16 那覇新港～コープおきなわ物流センターまでのルート図

県内の物流拠点である那覇新港からコープ沖縄物流センターまで、沖縄急送だけで1ヶ月に1,000トン以上の搬送量があります。現在は大型車の走行できる経路が限定されているので、仕方なく大きく迂回していますが、バイパスの整備によって搬送経路が変われば、所要時間の大幅な短縮や、物流の効率化、搬送時の安全性の向上などの効果にもつながると期待しています。



物流業者(沖縄急送)

- ➡ : 現道※ 那覇新港～那覇糸満線～宜野湾南風原線～浦添西原線～コープおきなわ
- ➡ : 両BP※ 那覇新港～那覇糸満線～南風原バイパス～与那原バイパス～コープおきなわ

※:H22センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より算出。南風原BP、与那原BPは設計速度を使用。センサスデータのない市道等については一般県道混雑時の上下平均旅行速度を用いて算出。

3. 事業の整備効果

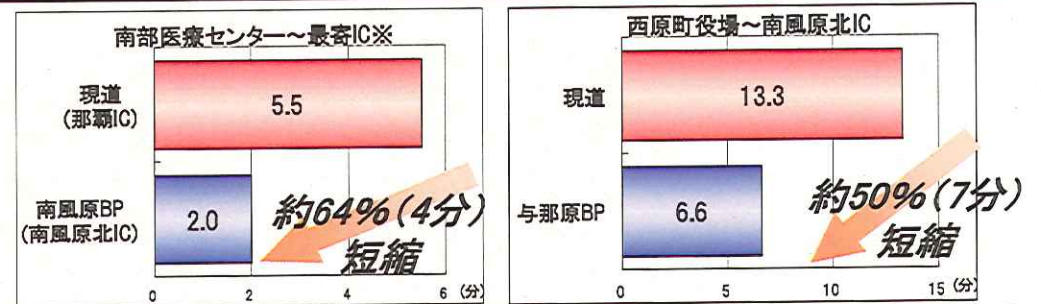
(1) 円滑なモビリティの確保

- ◆ 与那原バイパス・南風原バイパスの整備によって、南風原町・与那原町周辺から高規格道路へのアクセス性が向上する(図17)。
- ◆ 利用者意識調査から、「広域的な道路ネットワークの充実」「ICへのアクセス性向上」が期待されていることが分かる(図18)。

■ 南風原町・与那原町～高規格道路ICへの所要時間

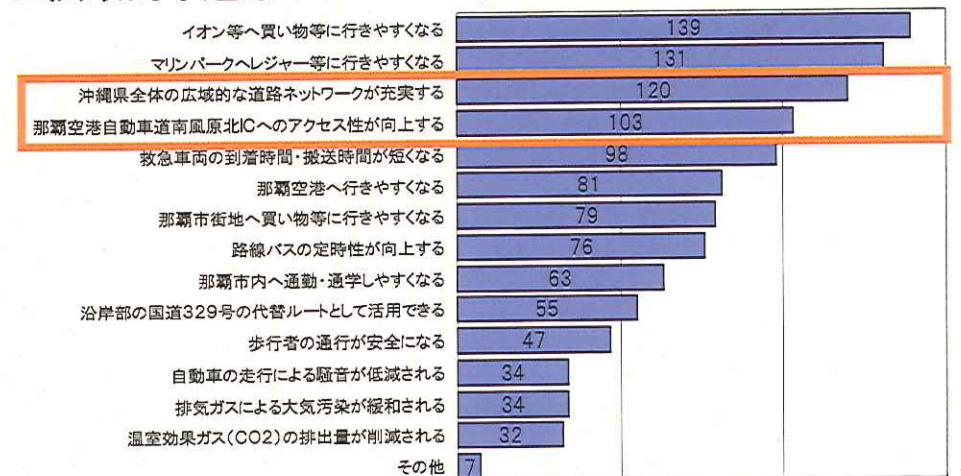


図17 南部医療センター、西原町役場～最寄のICまでのルート図



※: 現道通行時と南風原バイパス供用時で、それぞれ南部医療センターからの所要時間がより短いICを目的地に設定している。
 ※: H22センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より算出。南風原BP、与那原BPは設計速度を使用。センサスデータのない市道等については一般県道混雑時の上下平均旅行速度を用いて算出。

■ 広域的な道路ネットワーク拡充への期待(複数回答)



回答者数=276

図18 与那原バイパス・南風原バイパスに期待する効果

出典: 地域住民を対象としたWebアンケート調査 (H24年8月、南部国道事務所実施) 12

3. 事業の整備効果

(1)円滑なモビリティの確保

- ◆与那原交差点は複雑な交差点形状のため日常的に渋滞が発生しており、平均混雑時旅行速度が11.1km/hとなっている(図19)。
- ◆与那原バイパスが整備されれば、与那原交差点を回避することができるため、南風原町役場からマリンパークまでの所要時間が約42%(7分)短縮する(図20)。

■与那原交差点の混雑状況

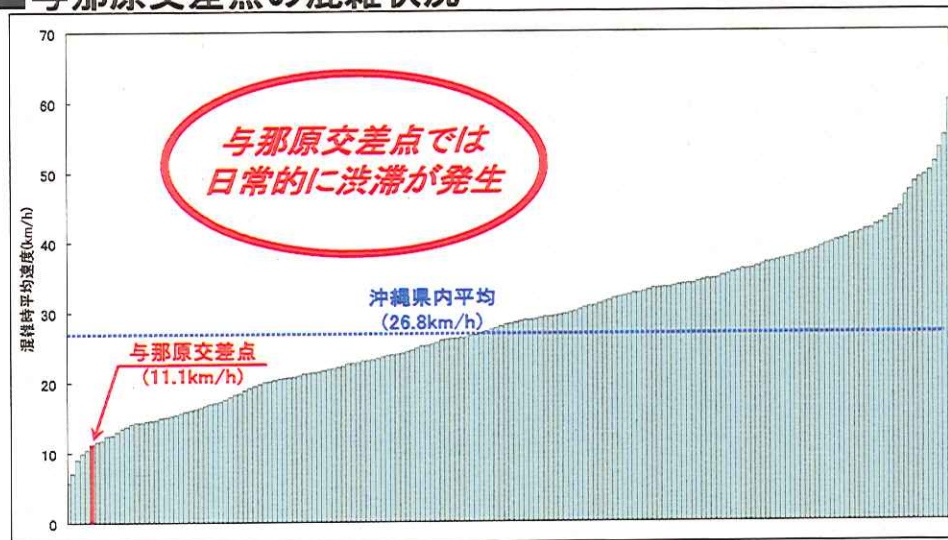


図19 沖縄県内の平均旅行速度

※: H22センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より作成。(沖縄自動車道、速度データのない道路は除く)

通勤通学時間帯に那覇方面へ向かう場合、与那原交差点から上与那原交差点の区間は混雑がひどく、通常よりも5分以上余計に時間がかかり、定時性の確保が難しい状況です。

東陽バス



与那原交差点の混雑状況

■所要時間の短縮

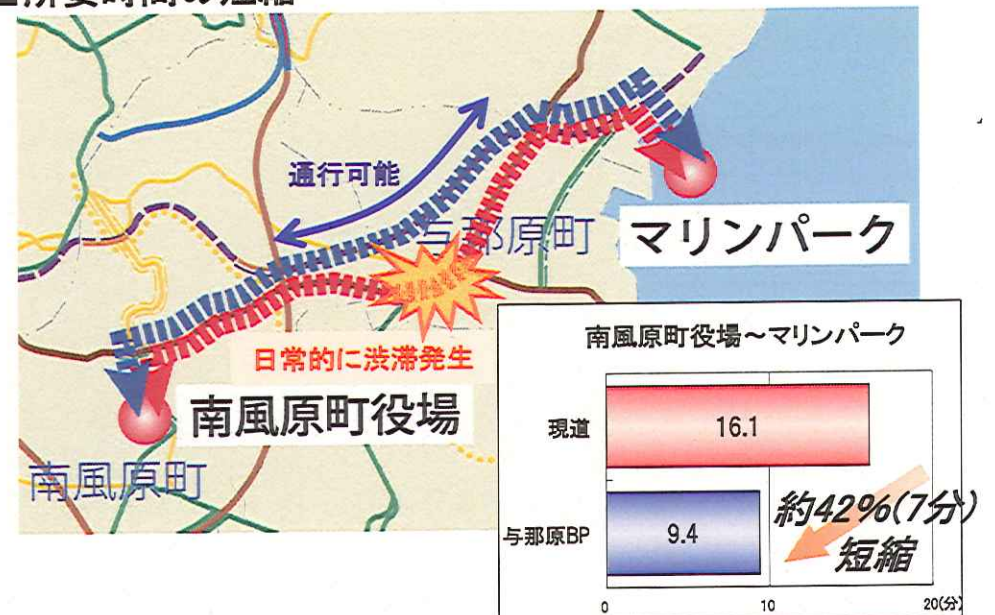


図20 南風原町役場～マリンパークまでのルート図

- : 現道※ 南風原町役場～国道329号～マリンパーク
- : 与那原BP※ 南風原町役場～国道32号～与那原バイパス～マリンパーク

※: H22センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より算出。南風原BP、与那原BPは設計速度を使用。センサスデータのない市道等については一般県道混雑時の上下平均旅行速度を用いて算出。

3. 事業の整備効果

(2) 個性ある地域の形成

- ◆ 与那原バイパス・南風原バイパスが整備されると、那覇市内からマリンタウンまでの所要時間が約43%(16分)短縮する(図21)。地域間の連携が強化されることで、与那原町・西原町と西海岸地域の交流が促進し、地域活性化を支援する効果が期待される。
- ◆ 利用者意識調査では、バイパスが整備されることで、59%が観光振興の促進に期待できる、44%がマリンタウンへレジャーなどに出かける頻度が増加すると回答している(図22,23)。

■ 那覇市内～マリンタウン周辺の所要時間



図21 那覇市内(県庁)～マリンタウンまでのルート図

- 現道※2 : 那覇市内(県庁)～国道58号～国道330号～国道507号～国道329号～マリンタウン※1
- 両BP※2 : 那覇市内(県庁)～県道42号～真地久茂地線～南風原BP～与那原BP～マリンタウン※1

※1: 沖縄本島の東海岸南部地域に位置する142haの埋立造成地で、西原町・与那原町の活性化と中南部地域の振興のために「海辺のアメニティー豊かなまちづくり」を推進するもの。
 ※2: H22センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より算出。南風原BP、与那原BPは設計速度を使用。センサスデータの無い市道等については一般県道混雑時の上下平均旅行速度を用いて算出。

■ 観光振興に対する要望

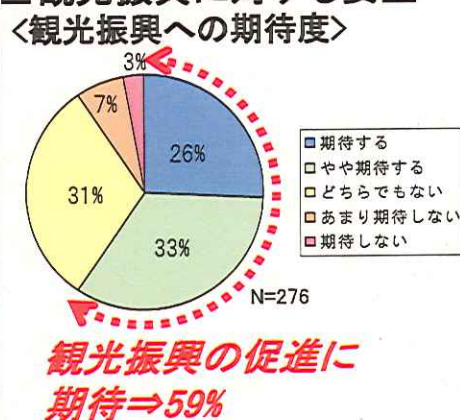


図22 観光振興に対する道路利用者意識

出典: 地域住民を対象としたWebアンケート調査 (H24年8月、南部国道事務所実施)

■ <マリンタウンへ出かける頻度の変化>

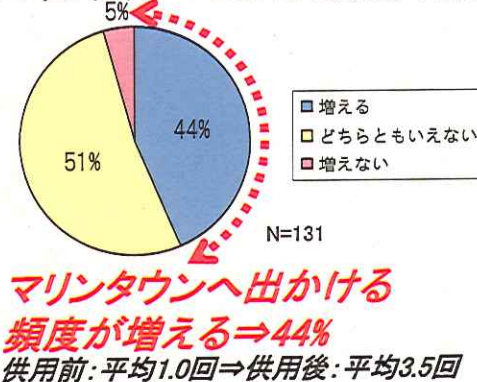


図23 マリンタウンへ出かける頻度の変化



現在は宿泊施設がないので、利用客の多くが地元住民となっています。マリンタウン整備(ホテル誘致)の動向を踏まえ、今後は県外からの観光客の呼び込みが課題となります。

与那原バイパスをまちづくりの中で骨格となる道路に位置づけています。現在、マリンタウン内へのホテル誘致を進めています。与那原バイパス・南風原バイパスの整備が進めば、ホテル開発者の早期進出が期待できると考えています。



3. 事業の整備効果

(3) 安全で安心できる暮らしの確保

◆与那原バイパス・南風原バイパスの整備によって交通の分散が図られ、国道329号の交通量減少が見込まれる(図24,25)。交通量が減少することで、歩行者の安全性が向上する。

■国道329号の交通状況の改善

交通の分散

⇒国道329号の交通量減少

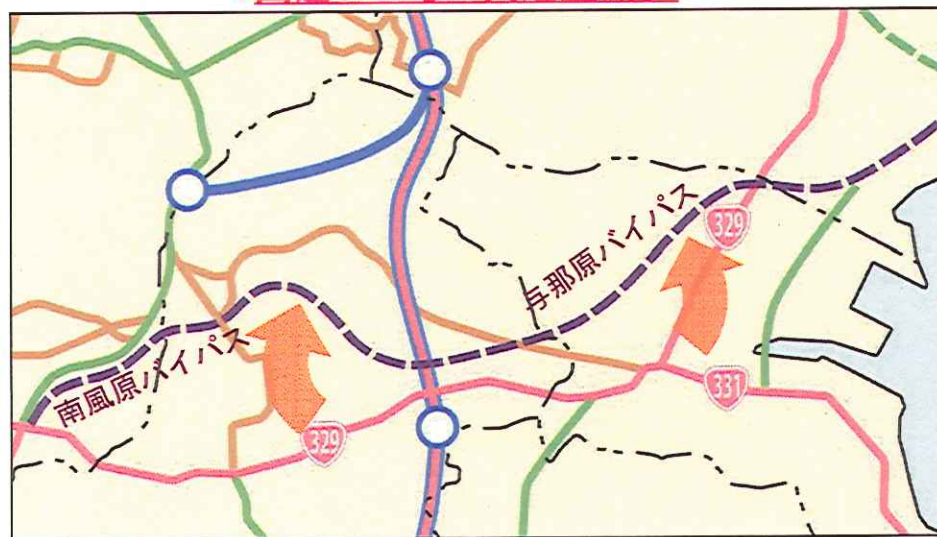


図24 国道329号の交通状況

■交通量の分散

国道329号の交通量 約38%減少
(南風原バイパス並行区間)

国道329号の交通量 約56%減少
(与那原バイパス並行区間)

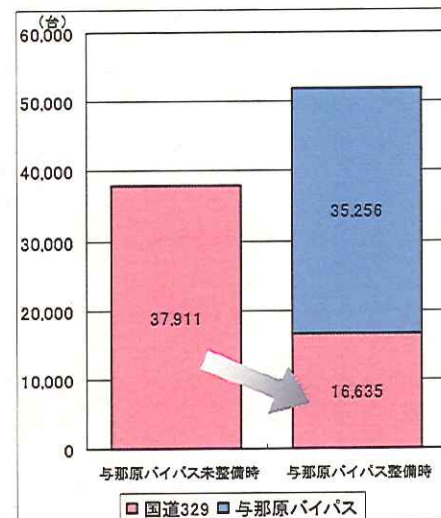
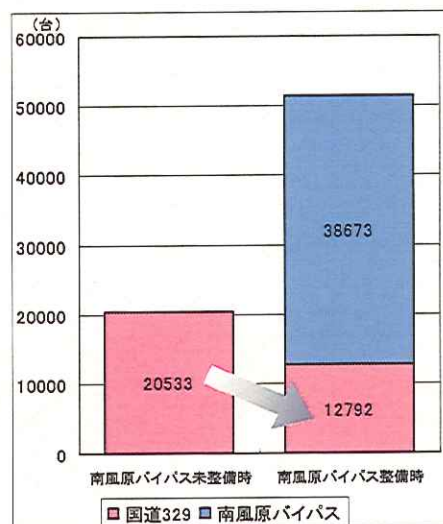


図25 与那原バイパス・南風原バイパス整備による交通量の分散 (H42交通量推計値より)



国道329号は非常に交通量が多く危険なので、児童に安全な歩行ルートを指導しています。また、危険性を考慮して車で送迎している家庭も多い状況です。
バイパスの整備によって交通量が減少し、安全性が向上することを期待しています。

与那原小学校

国道329号は町の中心に位置し、沿道には住宅が多く立地しています。国道329号の交通量が減少すると歩道の拡幅など、まちの賑わいを取り戻すための対策を打ち出せるのではと期待しています。



与那原町役場

3. 事業の整備効果

(3) 安全で安心できる暮らしの確保

- ◆ 与那原バイパス・南風原バイパスが整備されると、西原町の中心部から第三次救急医療施設である南部医療センターまでの所要時間が約53%(9分)短縮する(図26)。
- ◆ 所要時間の短縮によって、呼吸停止時の死亡率が約50%減少する(図27)。

■ 西原町～南部医療センターの所要時間

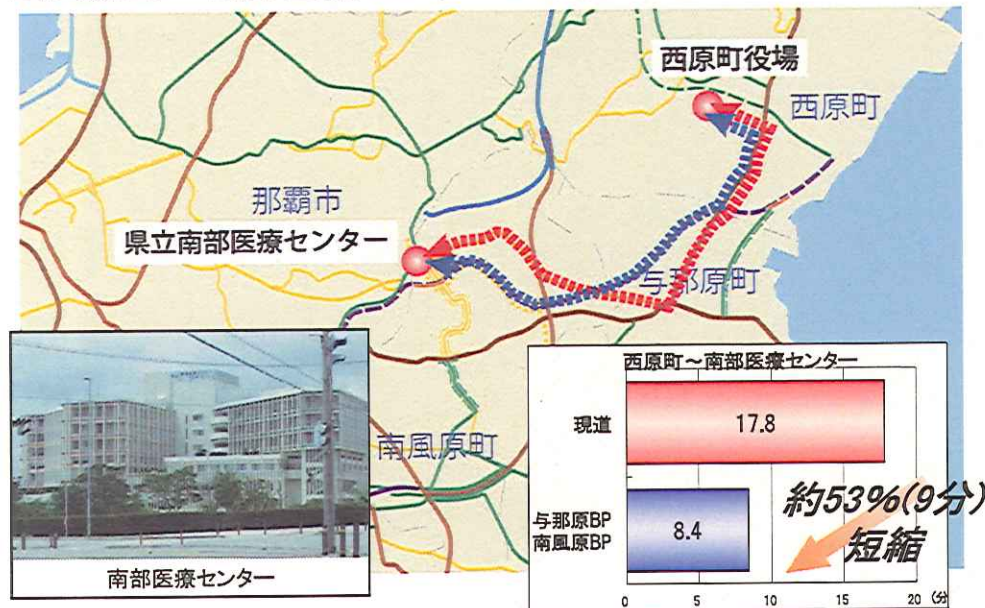


図26 西原町役場～南部医療センターまでのルート図

■ 救命率の向上(呼吸停止時)

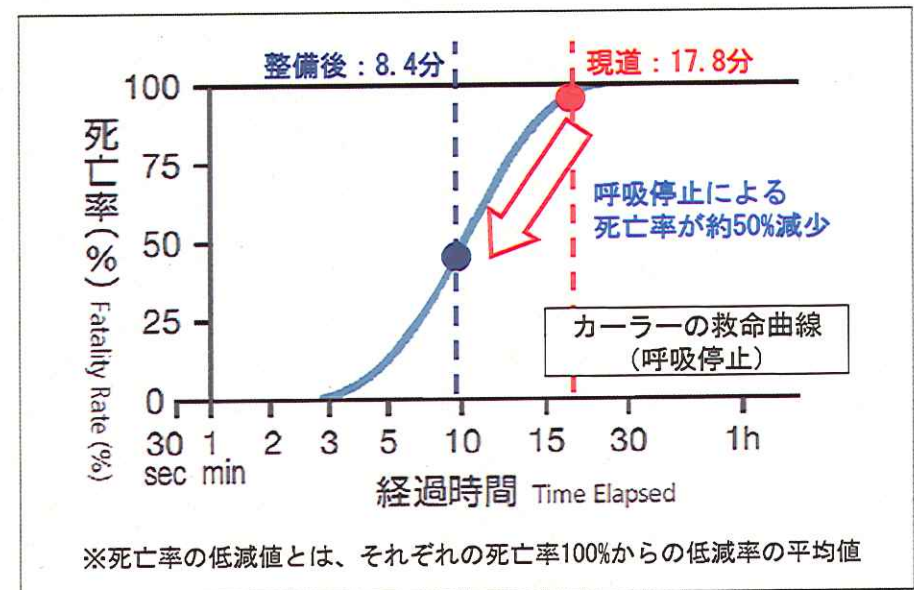


図27 与那原バイパス・南風原バイパス整備による救命率の向上

- : 現道※2
 西原町役場～浦添西原線～国道329号～南風原と与那原線～宜野湾南風原線～南部医療センター※1
- : 両BP※2
 西原町役場～国道329号～与那原BP～南風原BP～宜野湾南風原線～南部医療センター※1

※1: 第三次救急医療施設に位置づけられている、緊急医療施設。
 ※2: H22センサス混雑時旅行速度(上下平均値)より算出。南風原BP、与那原BPは設計速度を使用。センサスデータの無い市道等については一般県道混雑時の上下平均旅行速度を用いて算出。

現在、南部医療センターへ向かうために、追越しなどの緊急通行が難しい2車線道路や混雑した国道329号を通行しています。
 バイパスの整備によって、現場到着時間・搬送時間の短縮と安全安心な搬送につながると期待しています。



4. 事業の進捗状況と見込み (1)コスト縮減の取り組み

- ◆南風原バイパスでは、橋梁区間の幅員を見直すことで、工事費を2.3億円縮減した。
- ◆与那原バイパスでは、今後工事を行う区間の橋梁幅員を見直すことで、工事費を0.8億円縮減した。(橋梁区間：車道幅員3.5mから、3.25mへ見直し)

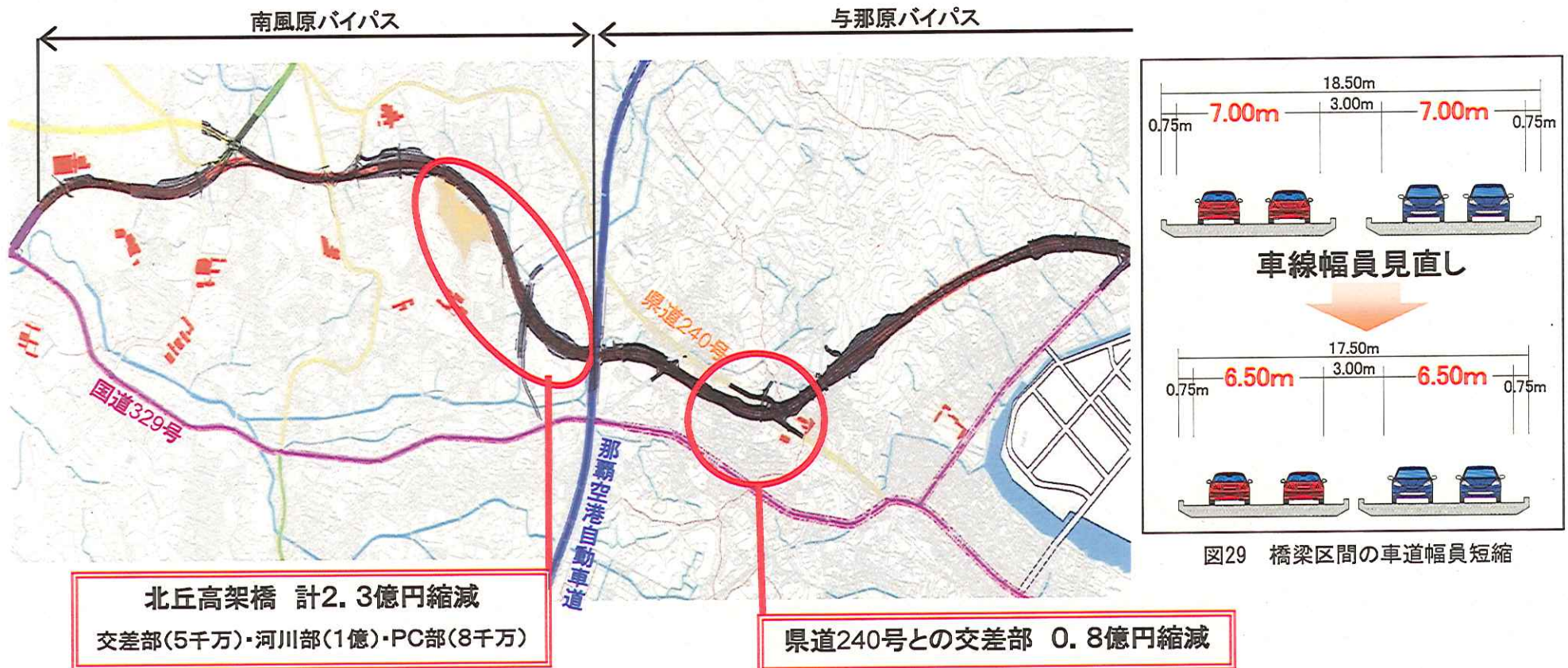


図28 与那原バイパス・南風原バイパスのコスト縮減箇所

4. 事業の進捗状況と見込み

(2) 進捗状況と見込み

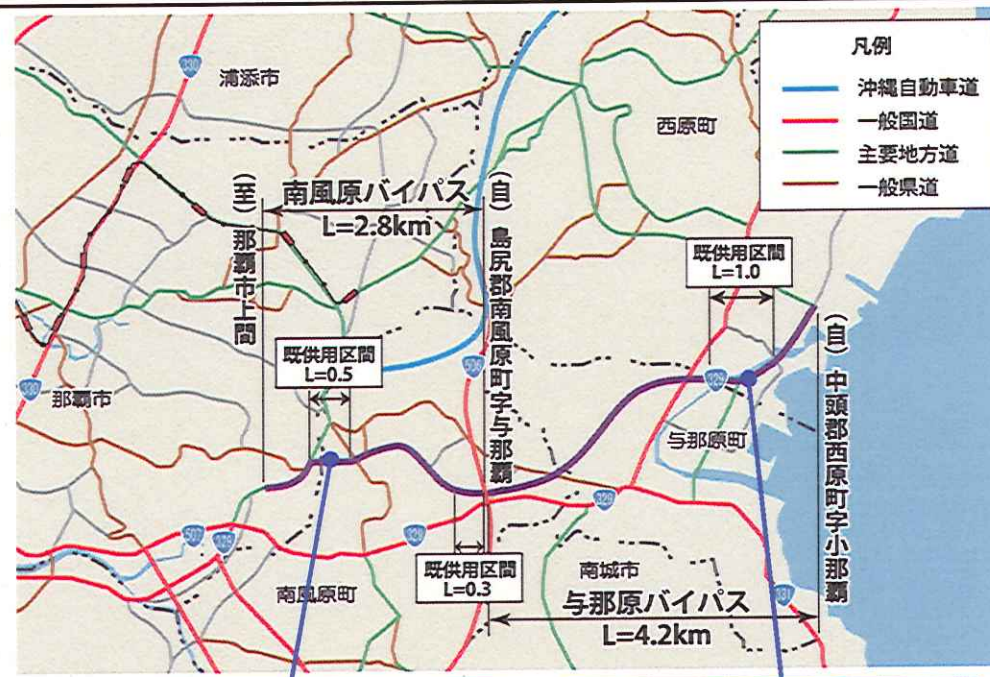
◆与那原バイパスは平成4年度、南風原バイパスは平成7年度に事業化され、現在、鋭意、事業進捗を図っている。平成24年度末の進捗率は、与那原バイパスが約48%、南風原バイパスが約27%となっている。

■事業の経緯(再掲)

年次	与那原バイパス	南風原バイパス
平成4年度	事業化	—
平成7年度	—	事業化
平成12年度	都市計画決定	
平成14年度	用地着手	
平成15年度	—	工事着手
平成16年度	工事着手	—

■事業の進捗率

	与那原バイパス	南風原バイパス
事業費	470億円	450億円
平成24年度末進捗	225億円	123億円
進捗率	48% (H21:38%)	27% (H21:10%)



南風原バイパス 部分供用区間



与那原バイパス 部分供用区間

5. 事業の投資効果

費用便益分析

項目	与那原バイパス		南風原バイパス	
	残事業	事業全体	残事業	事業全体
費用(C) (現在価値換算額) ^{※1)}	210億円 ^{※2)}	464億円 ^{※2)}	272億円 ^{※2)}	402億円 ^{※2)}
事業費(億円)	183億円	436億円	254億円	384億円
維持管理費(億円)	28億円	28億円	18億円	18億円
便益額(B) (現在価値換算額) ^{※1)}	1,350億円 ^{※2)}	1,350億円 ^{※2)}	524億円 ^{※2)}	524億円 ^{※2)}
走行時間短縮便益(億円)	1,211億円	1,211億円	502億円	502億円
走行経費減少便益(億円)	97億円	97億円	22億円	22億円
交通事故減少便益(億円)	42億円	42億円	0.00億円	0.00億円
費用便益比(B/C)	6.4	2.9	1.9	1.3

費用便益比の算出条件

$$\text{費用便益比} = \frac{\text{便益}[\text{①}+\text{②}+\text{③}]}{\text{費用}[\text{事業費}+\text{維持管理費}]}$$

適用マニュアル : 「費用便益分析マニュアル」
(平成20年11月:国土交通省道路局 都市・地域整備局)

基準年次 : 平成24年度

検討年数 : 供用後50年

事業費 : 現在価値事業費 = 単純価値事業費 × 割引率 × GDPデフレーター

便益 : ①走行時間短縮便益②走行経費減少便益③交通事故減少便益

・上記金額は、道路整備前後における、①走行時間の価値②走行経費③交通事故損失額の差により算出

・なお、各金額は将来OD(H17センサスペースH42OD表)により推計した交通量を用いて算出

費用及び便益額等については、平成24年度の価値に換算 (現在価値算出のための社会的割引率 : 4%)

※1)費用及び便益の金額は、社会的割引率(4%)、GDPデフレーター(H24.1公表)を考慮し、現在価値に換算した値。なお、維持管理費、便益額については供用開始より50年間の総額

※2) 便益・費用の合計は表示桁数の関係で一致していない

5. 事業の投資効果

その他地域社会が受ける便益等

項目		与那原バイパス	南風原バイパス
円滑なモビリティの確保	渋滞損失時間の削減量	<ul style="list-style-type: none"> 222万人時間/年(約57%)削減※1) 390.56万人時間/年→168.76万人時間/年 ※2) 	<ul style="list-style-type: none"> 108万人時間/年(約25%)削減※1) 434.96万人時間/年→326.76万人時間/年 ※2)
物流効率化の支援	物流の効率化	(那覇新港からコープおきなわ物流センターまでの所要時間) <ul style="list-style-type: none"> 45.8分→41.4分(約10%短縮)※3) ※与那原バイパスのみ供用時	(那覇新港からコープおきなわ物流センターまでの所要時間) <ul style="list-style-type: none"> 45.8分→43.7分(約5%短縮)※3) ※南風原バイパスのみ供用時
個性ある地域の形成	観光の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 那覇市街地から東海岸への交通円滑化により、中城湾港マリンタウンプロジェクトを支援。 	
安全で安心できる暮らしの確保	救急搬送活動の改善	(西原町役場から南部医療センターまでの所要時間) <ul style="list-style-type: none"> 所要時間:17.8分→12.5分(約30%短縮)※3) ※与那原バイパスのみ供用時	(西原町役場から南部医療センターまでの所要時間) <ul style="list-style-type: none"> 所要時間:17.8分→14.7分(約17%短縮)※3) ※南風原バイパスのみ供用時
供用の効果	並行路線の交通量減少	<ul style="list-style-type: none"> 並行路線である国道329号の交通量が56%減少。より規格の高い道路を使う割合が増加し、既存道路の交通安全に寄与。 	<ul style="list-style-type: none"> 並行路線である国道329号の交通量が38%減少。より規格の高い道路を使う割合が増加し、既存道路の交通安全に寄与。
地球環境の保全	CO2排出量の削減量	<ul style="list-style-type: none"> 9,058.60t-CO2/年(約0.5%)削減※1) ※4) 186.18万t-CO2/年→185.28万t-CO2/年(県全体) ※4) 	<ul style="list-style-type: none"> 3,535.37t-CO2/年(約0.2%)削減※1) ※4) 185.63万t-CO2/年→185.28万t-CO2/年(県全体) ※4)

※1) H42未整備時(without)、H42整備時(with)の数値の差

※2) 費用便益対象リンクのうち、交通量推計の結果から当該事業により大きく影響を受ける下記路線のリンクを対象として算出

与那原バイパス: 国道329号、(主)那覇北中城線、(主)那覇糸満線、(県)宜野湾南風原線

南風原バイパス: 国道329号、国道507号、(主)那覇北中城線、(県)南風原与那原線、(県)宜野湾南風原線、沖縄自動車道、(主)那覇糸満線、県道155号線、浦添西原線、県道28号線、南部東道路

※3) 現況路線はH22道路交通センサ混雑時旅行速度、与那原バイパス・南風原バイパス(完成供用後)は設計速度(60km/h)を用いて算出
センサデータのない市道等については一般県道混雑時の上下平均旅行速度を用いて算出。

※4) 沖縄本島全域

6. 対応方針

1. 事業の必要性

- 国道329号は、交通量が3万台/日以上、混雑度は1.38まで増加している。⇒交通渋滞の緩和
- ピーク時旅行速度は18.5km/hと、慢性的な渋滞が発生している。⇒交通渋滞の緩和
- 中城湾港マリントウンプロジェクトが平成5年に策定され、事業推進中。⇒地域の活性化支援

2. 事業の整備効果・投資効果

- 円滑なモビリティの確保
 - ⇒並行区間(国道329号)の交通量が与那原バイパスで約56%、南風原バイパスで約38%減少
与那原バイパス【37,911台/日→16,635台/日】、南風原バイパス【20,533台/日→12,792台/日】
 - ⇒現道の渋滞損失時間が与那原バイパス並行区間で約57%、南風原バイパス並行区間で約25%削減
与那原バイパス【390.56万人時間/年→168.76万人時間/年】、南風原バイパス【434.96万人時間/年→326.76万人時間/年】
- 個性ある地域の形成
 - ⇒沖縄県庁～マリントウンまでの所要時間が約43%短縮 【36.8分→20.8分】
- 安全・安心な生活の確保
 - ⇒迅速な救急活動、交通の分散による国道329号の交通量減少
- 地球環境の保全
 - ⇒CO2排出量の削減
- 費用便益(B/C) = 与那原バイパス【事業全体2.9, 残事業6.4】、南風原バイパス【事業全体1.3, 残事業1.9】

3. 事業の進捗と状況

- 道路幅員の見直しを行い、与那原バイパスで約0.8億円、南風原バイパスで約2.3億円のコストを縮減
- 平成15年度 南風原バイパス工事着手、平成16年度 与那原バイパス工事着手



○対応方針(原案):

事業継続